



河北潟にまみれる Sustainability

NPO法人 河北潟湖沼研究所



可能性ある未来へ
地域循環の実現



地域の水辺を守る

住民が参加してこそ河北潟の水辺環境が保全できます。
また、身近な自然と関わることで、地域を豊かにします。
河北潟湖沼研究所は、地域の水辺保全活動に多くの人々が参加することを提案しています。



代表的な取り組み

2005年より外来植物のチクゴスズメノヒエの除去活動をおこなっています。

- 2005年 水生植物保全プロジェクト 環境省いきづく湖沼ふれあいモデル事業
- 2006年 舟入川保全プロジェクト 環境省いきづく湖沼ふれあいモデル事業
- 2008年 農村景観・自然環境保全再生パイロット事業
- 2009年 農村景観・自然環境保全再生パイロット事業
- 2010年 セブーンイレブン環境活動助成事業

2005年

トチカガミ、ミクリ、アサザの自生する場所にて除去活動を実施。



2006年

河北潟周辺にわずかに残るかつて舟が行き来した川「舟入川」の保全活動。



2008年

チクゴスズメノヒエが著しく繁茂する水路において除去活動を実施。



2009年

継続的な除去活動に効果が現れる。通水阻害の問題が生じている干拓地にて大規模に除去。



2010年

継続の必要な箇所に加え、新たな場所でも除去活動を実施。堆肥化の実用実験開始。



循環をつくる

河北潟湖沼研究所は、地域における物質循環を促進することが、持続可能な地域をつくる上で重要であると考えています。その一つの取り組みとして、水辺生態系保全活動の中で除去した外来植物の有効利用を提案しています。



役立つ利用を探る

栄養塩類の多い河北潟と栄養が欠乏しがちな砂丘地が隣接するこの地域において、外来種が取り込んだ栄養分を循環する仕組みをつくることできれば、様々な可能性が広がります。地域経済の活性化にもつながります。



河北潟の水辺から除草



砂丘地へ運搬、乾燥化



堆肥置場の様子（2009年）



堆肥化前の様子（2010年）



堆肥づくり点検



セブン-イレブン助成で購入した粉碎機

作物をつくる

堆肥化

刈り取った外来種には、種子が付いていたり、他の雑草が混ざっていたりします。そのため堆肥化に当たっては、高温発酵により、病原性菌、病害虫の卵や雑草種子等を死滅させています。室内および実験圃場において、外来種をはじめとする雑草の発芽がないことを確かめています。また、堆肥の性能、安全性について、専門会社による分析をおこなっています。砂丘地に適しているダイコン等の栽培を目指しています。



地元住民による取り組み

かほく市の砂丘地にある「いきいき農園」では、地域の循環を進める活動として、農場にコンポストをおき、周辺の家から出る生ゴミや社寺林の落ち葉を堆肥化しています。また、不要となった農業資材を引き取り再利用しています。穫れた野菜を地域にお裾分けします。



←いきいき農園の一部で、外来植物の堆肥による試験栽培がおこなわれています。（左：コンポスト、中：タマネギの栽培、右：エンドウの栽培。）

堆肥化の考え方は2010年度、石川県水辺景観形成事業(受託機関 グリーン・アース河北瀧)にも取り入れられ、大規模な大根栽培の実験がおこなわれました。

河北潟湖沼研究所がめざす『未来』

能登半島の付け根に位置する河北潟は、干拓地ができる以前は、東西4km、南北8kmの北陸地方最大の潟湖でした。その頃は、大野川を通じて日本海の海水が入り込んでいましたので、フナやコイなどの淡水魚だけでなく、ボラやウナギ、シラウオやカレイなど海の魚も豊富に棲んでいました。河北潟の豊かさは、地域産業を興し、地域の人々の暮らしに潤いをもたらしていました。

1963年に始められた国営干拓事業により、河北潟は大きく変わりました。同時に潟の周りで暮らす人たちの生活も大きく変わりました。閉じられた水域の水質は悪化し、水辺の改変により多くの野生は失われました。新しい産業である干拓地農業はまだまだ発展途上です。

今、人と河北潟との関係を取り戻すことが大切です。河北潟の自然と暮らしの新しい再生が必要です。





農業用水の循環の中
での水質浄化

湖岸の植生の保全

頂(養分)を
に活かす

地域の中でのリサイクル

新しい再生 ~水辺と人の暮らしが結びつく未来~

潟と丘陵との循環を促す
ミサゴ(鷹)の保全

陸と水域との
水の流れを取り戻す

自然環境に配慮した
干拓地農業 (野生生物との共存)

河北瀉湖沼研究所の理念

地域に根ざした研究機関

河北瀉湖沼研究所は、河北瀉の環境を回復させようと、多くの住民、研究者、企業の代表者が集まって1994年10月に設立されました。1999年8月に石川県で2番目のNPO法人として認可を受け、同年10月に法人格を得ました。わたしたちの研究課題は、1) 河北瀉とその周辺地域の環境の現状を把握すること、2) 河北瀉と周辺地域の環境保全と地域振興に関する研究をすすめることです。

地域に根ざした研究機関を目指す

研究課題

自然環境の現状を調査



河北瀉の環境保全と
地域振興を研究

持続可能な地域社会の発展を探求

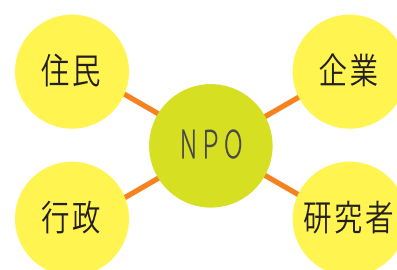
環境問題を解決するためには、自然環境と人間活動とのかかわりについて様々な角度から調査・研究を積極的に進める必要があります。わたしたちは、地域の環境問題を解決することが地域の発展につながり、地球全体の環境問題を解決する重要なヒントがあると考えます。



持続可能な地域社会を提案する

様々な組織の接着剤

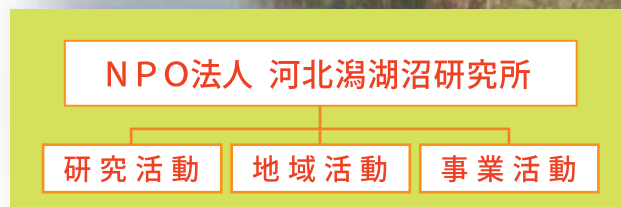
地域の環境問題を解決するためには、地域を構成する住民、研究者、行政、企業との共同が必要と考えます。わたしたちは共同の場をつくりだし、立場の異なる組織の連携を促します。



活動の3つの柱と組織構成

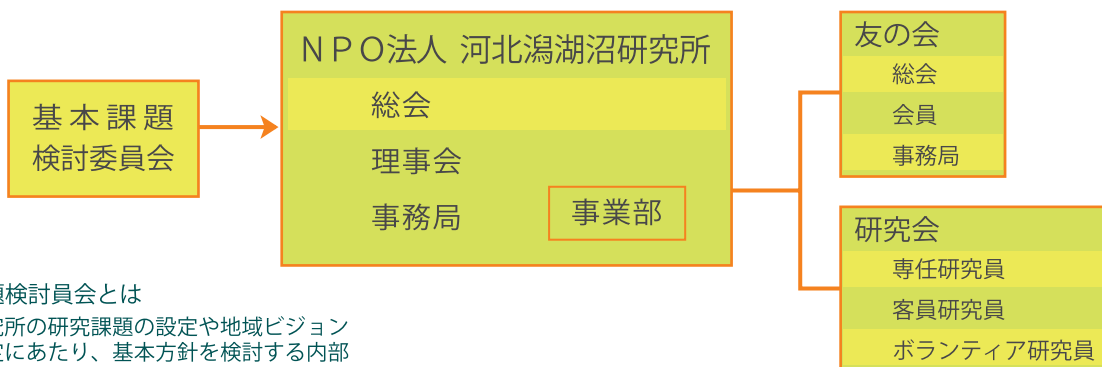
活動

わたしたちは実践を重視した1)研究活動、2)地域活動、3)支えとなる事業活動を行っています。



組織の仕組み

河北潟湖沼研究所は、NPOとしての組織活動、研究活動、地域活動のそれぞれをおこなうために3つのユニットで活動しています。



基本課題検討委員会とは

当研究所の研究課題の設定や地域ビジョンの策定にあたり、基本方針を検討する内部機関として、主に各分野の専門スタッフから構成されます。以下の事項を審議します。

- (1). 研究基本計画の策定
- (2). 研究予算策定と配分
- (3). 研究成果の審議
- (4). 機関誌の編集方針



研究活動

河北潟の湖岸植生の現状把握

河北潟の湖岸沿いに存在するヨシやヒメガマなどの植生帯は、波の吸収や水質改善、野生生物のすみかとなるなど、その役割は重要です。近年は水際のヨシなどが倒れ、植生が減少している場所もみられます。河北潟湖沼研究所は、自然環境の保全と利用を考える上での基礎データを蓄積しています。



河北潟の沿岸帯の植生調査

- ・金腐川河口周辺（2005年）
- ・津幡川河口域周辺（2007年）
- ・森下川河口域周辺（2008年）
- ・新宇ノ気川河口域周辺（2009年）
- ・旧浅野川河口部から防潮水門南東側（2010年）

河北潟湖岸全域植生調査（2010年）



NPO法人河北潟湖沼研究所では、機関誌として「河北潟総合研究」を年1回発行しています。河北潟や地域の自然、環境、生活、文化、歴史等に関する研究成果の発表の場として、当研究所会員や県内外の主な研究機関に配布されます。一般市民にも開放された専門誌、さらに環境保全・地域振興に関する学際的・総合的な研究交流の場となることをめざしています。

調査研究のあゆみ

内灘町生態系活用水質浄化実験施設の建設、施設管理および活用実験。内灘町より委託事業（1996年～2005年）

機関誌「河北潟総合研究」第1巻を発行（1997年）

河北潟干拓地水辺ビオトープの造成と経過調査（1998年～2003年）

河北潟干拓地土地利用調査（1999年）

河北潟将来構想の作成（1999年）

河北潟周辺の水生生物調査（1999年）

河北潟周辺の生物調査（2000年、01年）

中国科学院南京湖泊研究所および香港理工大学との共同研究の協定締結（2000年）

南京莫愁湖において生態系調査（2000年、01年）

アサザビオトープの設計・生物調査（2000年）

ミサゴ営巣状況調査開始（2000年～）

河北潟西部承水路調査開始（2002年～）

モンゴル環境視察団派遣（2005年～07年）

チクゴスズメノヒエの調査および除草試行実験（2005年～）

河北潟干拓地生態調査開始（2006年～）

河北潟植物相調査（2008年）

河北潟干拓地における外来植物調査（2009年）

機関誌「河北潟総合研究」第13巻を発行（2010年）

河北潟、柴山潟、木場潟の植生調査（2010年）

チクゴスズメノヒエ堆肥の性能実験（2010年）

地域活動

河北瀉自然観察会

1998年8月より、偶数月の第一日曜日に自然観察会を開催しています。2010年2月で76回を迎えました。専門家のいる観察会のため、河北瀉の自然や生物について理解を深めることができます。また、大勢で観察することで新たな発見もあります。普段の生活の中で自然と接することの少ない現代人にとって、観察会は身近な自然を見る目を養う場となります。

こなん水辺公園自然解説員事業

2009年4月からは金沢市こなん水辺公園に自然解説員を派遣し、来園者へのネイチャーガイドや、河北瀉の自然情報の発信をおこなっています。



地域活動のあゆみ

- 河北瀉自然保護学校開校（1995年、96年）年7回の講座
- 河北瀉共和国の開催（1995年、96年）
- 河北瀉湖沼研究所通信第1号発行（1995年～）
- 河北瀉自然観察会の開催（1998年～）
- 河北瀉湖沼研究所創立5周年イベントを実施（1999年）
- 河北瀉将来構想パンフレットの発行（1999年）
- 河北瀉カレンダー発行（2000年～）
- アサザビオトープの設計と保全活動（2000年～）
- 河北瀉・干拓地の有効な利用シンポジウム開催（2002年）
- 河北瀉自然再生協議会の発足に参加（2002年～）
- 河北瀉と干拓地の将来を考えるシンポジウム開催（2003年）
- 環境省モデル事業受託、外来植物除草活動（2005年、06年）
- グリーン・アース河北瀉の構成団体として参加（2006年）
- 河北瀉地区外来植物対応方策検討会に参加（2007年）
- 農水省パイロット事業の受託、外来種除草活動（2008年、09年）
- 琵琶湖視察バスツアー（2009年）
- 河北瀉湖面利用協議会の発足に参加（2010年～）
- 河北瀉自然再生まつり実行委員会へ参加（2010年）



NPO法人河北潟湖沼研究所は、 地域のさまざまな連携の中で活動をおこなっています

河北潟自然再生協議会

町会等の地域組織、地域の環境保全に取り組む諸団体が結集して、河北潟クリーン作戦をはじめとする環境保全活動や、諸団体の意見集約、各団体への提案をおこなっています。当研究所は、参加団体として世話人会や事務局の活動をおこなうとともに、共同ビジョンである「河北潟の自然再生構想」の策定において、一定の役割を果たしています。



河北潟湖面利用協議会

河北潟の湖面でボートを使う人々や釣り団体、住民、環境NPO、行政機関等と一緒に話し合っ、河北潟の自然を守りながら湖面を利用する方法を模索しています。暫定的なルールが2010年2月に制定されました。河北潟湖沼研究所は、湖岸植生の現状やモーターボート利用上の問題点について指摘し、ルール作成に積極的に取り組みました。

河北潟自然再生まつり

2010年11月23日に第1回のまつりが開催され、250名の地域の人たちが集いました。河北潟で環境活動をおこなっている諸団体が、一斉に環境保全活動をおこない、楽しいイベントとなりました。当研究所は、まつり実行委員会に参加するとともに事務局活動などをおこないました。また、湖岸の植生再生のため、植栽の試行イベントを企画しました。



パンフレット「河北潟にまみれる」

発行日 2011年2月17日

発行所 NPO法人 河北潟湖沼研究所

石川県河北郡津幡町字北中条ナ9-9

e-mail info@kahokugata.sakura.ne.jp

URL <http://kahokugata.sakura.ne.jp>

企画・構成：高橋 久 デザイン：川原奈苗

この活動は、2010年度一般財団法人セブン-イレブン記念財団の公募助成を受けています。